

HOKKO Value Up Plan 2029

2nd Stage

第2次 3カ年経営計画
2024年度(2024年11月期)～2026年度(2026年11月期)



北興化学工業株式会社

2024年1月12日

目次

	ページ
1. 長期ビジョン	2
2. 3カ年経営計画(全体像)	3
3. 経営目標	4
4. 成長戦略	5
(1) 成長投資	
(2) ゴール(2029年度)に向けたロードマップ	
(3) サステナビリティ向上への取り組み	
5. 株主還元	9
6. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 (参考)	10
① 3つの改革	12
② セグメント別事業戦略	13

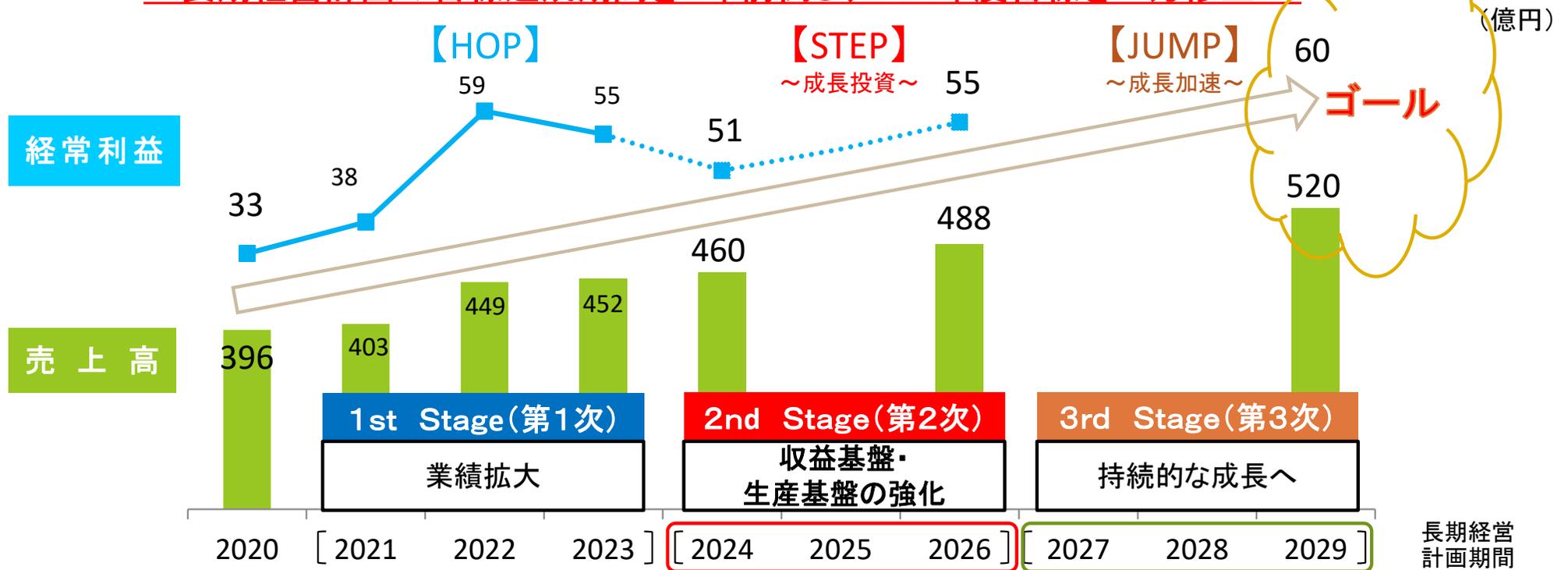
1. 長期ビジョン

【業績目標とスローガン】

売上高	(2020年度) 396億円	↗	(2029年度) 520億円
経常利益	(2020年度) 33億円	↗	(2029年度) 60億円

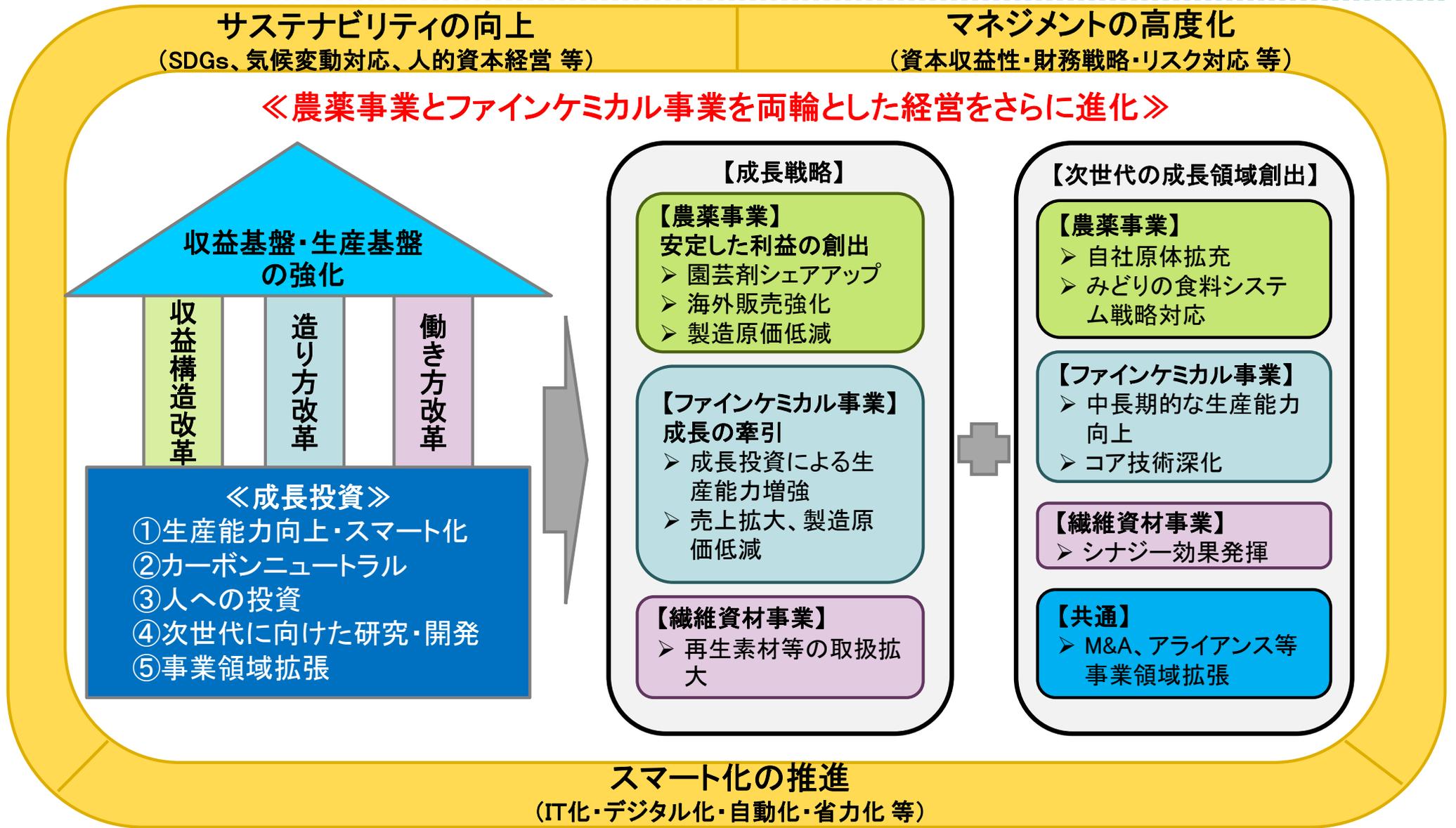
HOKKO Value Up Plan 2029
未来は創造できる
～ 強く、豊かなHOKKOへ ～

《長期経営計画の目標達成期間を1年前倒し、2029年度目標を上方修正》



※中期経営計画期間を5年(×2期)からコロナ禍以前と同じ3年(×3期)に変更、成長戦略等をより具体化・明確化

2. 3カ年経営計画(全体像)



3. 経営目標

- 成長加速に向け、長期業績目標達成期間を1年前倒すとともに長期業績目標を上方修正

	従来の長期業績目標 (2030年度)	長期業績目標 (2029年度)
売上高	500+ α 億円	520億円
経常利益	50+ α 億円	60億円

- 2nd Stageは、新たに策定した成長戦略の実現に向けて、設備投資、研究開発投資、人的資本投資、アライアンス等の成長投資に集中して取り組む。(百万円) <参考>

		1st Stage (2021~2023)	2nd Stage (2024~2026)		前経営計画
		2023年度 実績	2024年度 予想	2026年度 目標	2025年度 目標
業績	売上高	45,227	46,000	48,800	46,500
	経常利益	5,474	5,100	5,500	4,400
資本収益性	ROE	8.8%	—	8%以上	8%以上
	ROIC	5.8%	—	6%以上	—
財務健全性	自己資本比率	69.3%	—	60%以上を維持	60%以上を維持

※前提為替レート1ドル 130円

【計画期間における主な外部環境要因、成長投資に伴うコスト増加要因】

- < 農薬事業 > 海外市場の伸長と海外登録費用増加、国内農薬の原体再評価・新製剤開発に伴う研究開発費増(約3億円)
- < ファインケミカル事業 > 樹脂・電子材料分野の需要の緩やかな回復、成長投資や新技術開発・導入に伴う負担先行(成長投資欄参照)
- < 人的資本 > 人的資本投資拡充(教育研修拡充、処遇向上、福利厚生等エンゲージメント強化等)

4. 成長戦略

- 2nd Stageにおいて、成長投資に集中的に取り組む方針。
- 当社グループが持つ強みをベースに、成長投資により、長期業績目標達成に向けた軌道を確認たるものにする。
- ✓ 成長投資の実行に向け「戦略的設備投資・投融資枠100億円」を設定
- ✓ 事業領域の拡大に向けたM&A・アライアンスの活用検討を加速し、投融資枠を機動的に増枠

当社グループが持つ強み

景気動向の影響を受け難い安定した農薬事業と樹脂・電子材料分野を中心に成長性の高いファインケミカル事業を両輪(相互に補完)とした経営。

【農薬事業】

- 製剤技術に強み(省力化製剤「楽粒[®]」の開発等)。
- 天然物由来の自社原体(カスガマイシン)を保有し、国内外において長期間安定的に供給。
- 成長する海外市場への対応として、特に水稻除草剤のアジア向け販売拡大(イプフェンカルバゾン)にポテンシャル。

【ファインケミカル事業】

- 先端技術を有する化学メーカーの多種多様なニーズに対応できる高い合成技術を保有。
- コア技術であるグリニヤール反応の工業化において、世界でも有数の生産規模を誇る。
同反応は発熱量が大きく制御が難しいため、参入障壁になっている。また、品質・価格面においても競争力は高い。
- 成長する半導体産業において、前工程(フォトレジスト原料)・後工程(封止剤用硬化促進剤)で求められる高い基準を満たす技術を保有しており、高品質の素材を提供。

(1) 成長投資

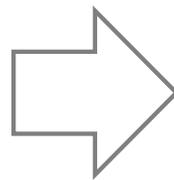
- 成長を牽引するファインケミカル事業の生産能力増強(樹脂、電子材料分野等)、サステナビリティ向上、次世代に向けた成長領域創出を主体として、成長分野への設備投資・投融資を進める。
- 併せて、再評価・新製剤技術開発・新技術開発に向けた研究開発、人的資本投資拡充を加速する。

《戦略的設備投資・投融資枠》

重点分野	投資規模	投資内容
①生産能力増強・スマート化	60億円程度	岡山工場のファインケミカル事業専用化推進(合成第10工場建設・新合成技術導入・施設の最適配置等)、工場スマート化等(共通)
②サステナビリティ向上	10億円程度	省エネ・カーボンニュートラル対応(共通)
③次世代に向けた成長領域創出	30億円程度+α	自社原体拡充・共同開発(戦略枠)・みどり戦略(農薬事業)、新技術開発(ファインケミカル事業)、M&A・アライアンス(共通)
合計	100億円+α	

《前3カ年(2021~2023)》

設備投資・投融資	72億円
研究開発費	46億円
人的資本投資	



《本経営計画(2024~2026)》

設備投資・投融資枠	130億円(※)+α
研究開発費枠	50億円
人的資本投資拡充	

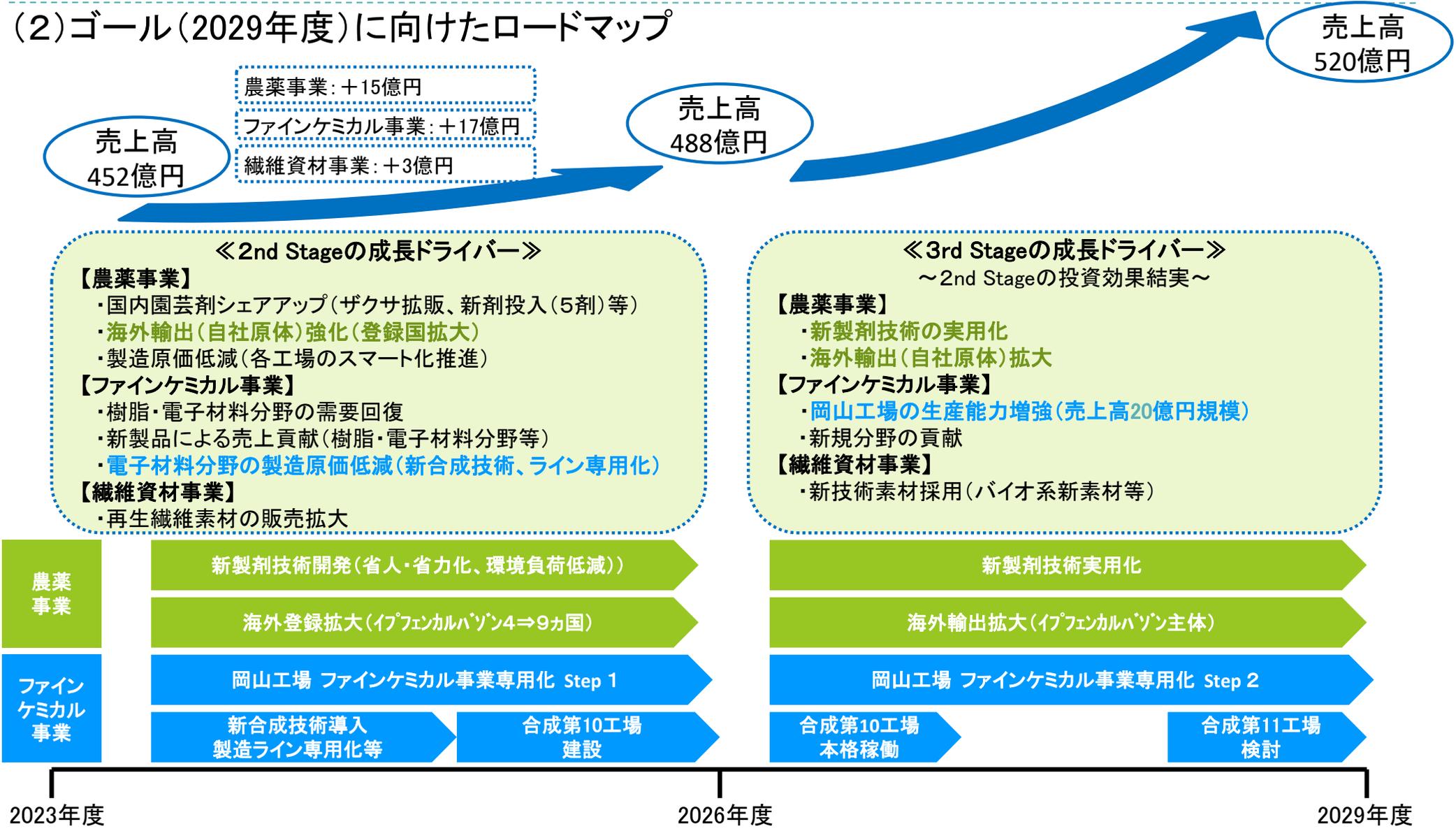
(※)戦略的設備投資・投融資枠(100億円)+通常設備投資枠(30億円)

<参考>

減価償却費	46億円
-------	------

減価償却費	50億円+α
-------	--------

(2)ゴール(2029年度)に向けたロードマップ



(3) サステナビリティ向上への取り組み

企業理念

「社会貢献」「環境」「技術」を経営のキーワードとし、全ての人々の幸せのため、食糧の安定供給に寄与する安全で安心な農薬製品および産業活動を幅広く支えるファインケミカル製品を社会に提供していきます。

<p>社会への 価値提供</p>	<p>持続可能な農業の支援 【農薬事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 省力化志向「楽粒」の普及拡大 ▶ 環境負荷低減製品の開発・普及 ・天然物由来製品、新製剤技術等 	<p>産業の技術革新への貢献 【ファインケミカル事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 成長分野の製品拡大・新技術開発 ・半導体関連素材の開発・提供 ・エネルギー関連素材の開発・提供 	<p>産業の発展と豊かな社会づくり 【繊維資材事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リサイクル繊維の使用率向上 ・環境配慮型再生繊維素材の使用 拡大
<p>社会貢献</p>	<p>気候変動(TCFD)への対応 ～リスク・機会の影響評価、対策具体化～</p> <p>カーボンニュートラル・省エネ推進</p> <p>【GHG排出量削減目標】 2030年度22%削減(2013年度比)、2050年度カーボンニュートラル</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新技術導入(エネルギー効率化)、再生油活用、設備の省エネ化、燃料転換・太陽光発電等 <p>CSR調達の推進 ～CSR調達方針の策定・開示、実施体制整備～</p>		
<p>人的資本</p>	<p>人材育成方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ チャレンジする人材の育成 ▶ 研修体制の拡充 ▶ 福利厚生等エンゲージメントの強化 	<p>社内環境整備方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ダイバーシティの推進 ▶ ワークライフバランスの実現 ▶ 健康経営の推進 ▶ コンプライアンスの徹底 ▶ 労働安全衛生の確保 	

「持続可能な社会の実現」と「持続的な企業価値向上」の好循環実現に向け、サステナビリティを向上する

5. 株主還元

《基本的な考え方》

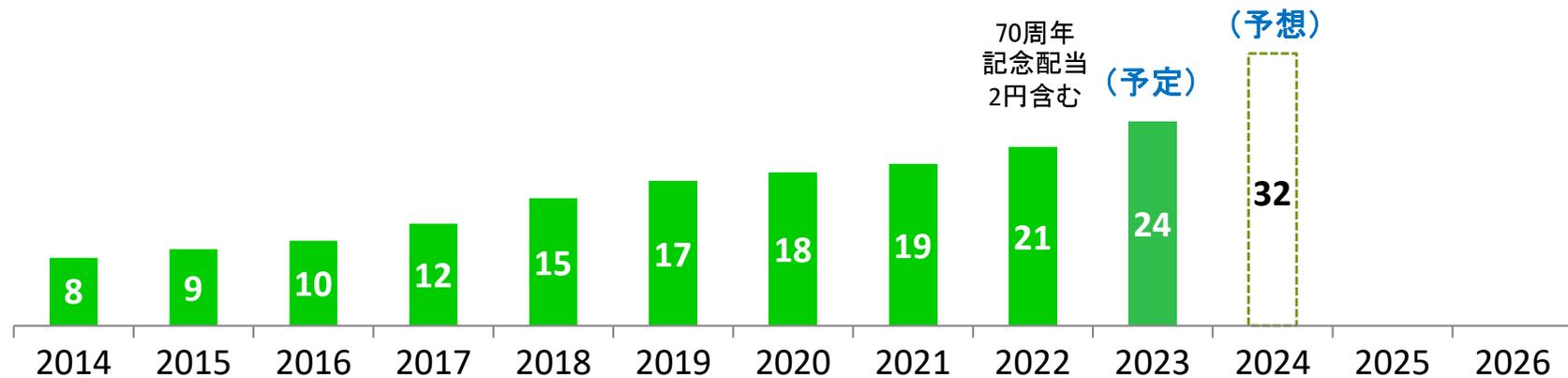
財務の健全性や成長投資とのバランスを図りつつ、安定した配当の継続を基本に株主還元の充実に努める。

《配当方針》

本経営計画(2024～2026年度)において、累進配当を基本方針とし、利益の成長に応じた増配を目指す。

累進配当:原則として減配せず、配当の維持もしくは増配を行う配当政策

1株あたり配当金の推移(円)



配当金総額	221	248	276	327	406	460	487	515	569	650	—
配当性向	22.1%	13.1%	14.0%	16.5%	13.8%	16.3%	20.3%	17.6%	13.5%	17.5%	25.1%
総還元性向	22.1%	13.1%	14.0%	31.5%	13.8%	16.3%	20.3%	17.6%	13.5%	17.5%	—

⇒2017年度の総還元性向は、自己株式取得3億円を含む

6. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

現状分析

(1) 資本収益性・資本コスト

➤ ROEは8%超で推移しており、株主資本コストを上回る資本収益性を確保していると認識。

(2) 市場評価

➤ PBRは1倍を下回る水準で推移。

➤ PBR改善に向け、成長戦略に対する市場評価の向上、資本効率の向上、株主還元策等が課題と認識。

【参考: 主な経営指標の推移】

(百万円)

		2020年度 実績	1st Stage(2021~2023)		
			2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績
業績	売上高	39,641	40,287	44,864	45,227
	経常利益	3,258	3,843	5,905	5,474
資本 収益性	ROE	8.5	9.1	11.6	8.8
	ROIC	4.9	5.2	7.9	5.8
市場 評価	株価	1,124	846	909	975
	PBR	1.00	0.67	0.64	0.56

取組方針

【基本方針】

本経営計画期間は、新たに策定した成長戦略の実現に向けて、設備投資、研究開発投資、人的資本投資、アライアンス等投融資に集中して取り組む方針。

【資本収益性】

成長戦略の実現に向けた取り組みに集中的に経営資源を投入する中で、資本収益性の向上を目指す方針。

【財務戦略】

リスクマネジメントの観点も踏まえて、株主還元の充実を含むキャッシュ・アロケーションの最適なあり方を目指す方針。



具体的な 取り組み

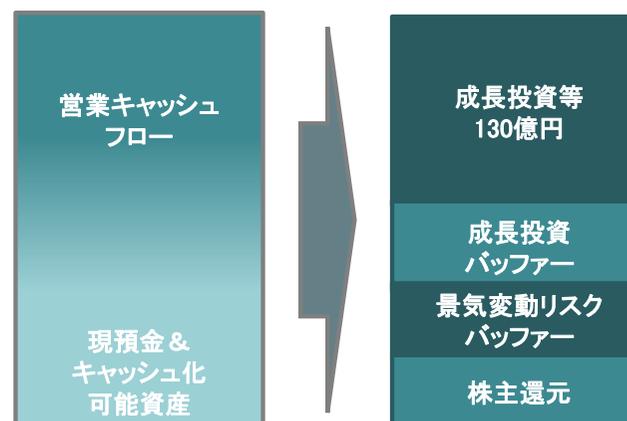
【資本収益性】

資本効率管理体制の強化により、資本コストを上回る収益性を確保していく。

- ①ROE 8%以上、②ROIC 6%以上

【財務戦略】

- ①成長戦略の実現に向け「戦略的設備投資・投融資、通常設備投資枠」130億円を設定。加えて、アライアンス等事業領域拡大への機動的な対応に備えた成長投資バッファを確保する。今後、レバレッジの活用も検討。
- ②景気変動等に備えたリスクバッファも必要と認識。
- ③政策保有株式については、保有の合理性を検証しつつ、主に成長投資バッファとしての活用を検討し、対純資産比率の縮減に努める。



【株主還元】

- ①9期連続増配(2015～2023年度)。2024年度配当予想32円。
- ②本経営計画において「累進配当方針」を導入。利益の成長に応じた増配を目指す。
- ③成長戦略の進捗、資本収益性・財務戦略の状況等に鑑みつつ、株主還元の充実に努める。

【IR・SR】

- ①開示内容の充実、IR・SR機会の拡充(決算説明会参加者の増加等)に努める。
- ②株主様との対話促進および株主様の意見等の経営へのフィードバックに努める。

(参考) ①3つの改革

- 前中期経営計画における「3つの改革」を継続するとともに、改革の重要テーマに「成長分野への経営資源投入」、「資本効率向上」、「人的資本経営」等を追加・明確化し、改革への取り組みを加速する。

収益構造改革

- **成長分野への経営資源投入**
 - ・国内園芸分野、農薬海外輸出
 - ・樹脂・電子材料等の生産能力増強
- **製造コスト低減**
 - ・自動化・省力化、生産効率向上
- **資本効率向上**
 - ・ROE・ROIC等経営管理強化

造り方改革

- **生産能力向上**
 - ・新工場建設・新技術導入
- **スマート化**
 - ・自動化・省力化、IT化・デジタル化
- **省エネ・カーボンニュートラル**
 - ・GHG排出量削減目標
 - 2030年度22%削減(2013年度比)

働き方改革

- **業務効率化**
 - ・IT化・デジタル化の推進
 - ・基幹システム更改の推進
- **人的資本経営**
 - ・人材育成等人的投資の推進

(参考) ②セグメント別事業戦略

(a) 農薬事業

事業戦略	主な取組事項
国内販売強化	<ul style="list-style-type: none"> ① 高拡散性粒剤「楽粒[®]」の品目拡充と普及拡大(2023年度末3剤、計画期間3剤上市) ② 園芸剤シェアアップ ③ 新規除草剤の投入と普及拡大
海外市場への取組強化	<ul style="list-style-type: none"> ① イプフェンカルバゾンの登録国拡大と販売強化(2023年度末登録4カ国、計画期間中5カ国登録) ② 円滑な原体調達への取り組みおよび自社原体の拡販
製造コスト低減	<ul style="list-style-type: none"> ① 自動化・省力化の推進(工場のスマート化) ② 工場拠点の集約化推進
研究開発強化	<ul style="list-style-type: none"> ① 創製研究および農薬原体の開発・導入 ② 楽粒に続く新規製剤の開発 ③ 環境負荷低減を考慮した製品開発、天然物由来製品の開発推進

次世代の成長領域の創出	主な取組事項
自社原体の拡充	AI活用による創製研究のスピードアップ、共同開発による原体・製品の導入
新たな製剤技術の確立	スマート農業(ドローン散布等)、化学農薬使用低減に対応した製剤
みどりの食料システム戦略対応	バイオスティミュラント剤および生物農薬、天然物由来製品の開発



(b) ファインケミカル事業

事業戦略	主な取組事項
持続可能な生産体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ① 岡山工場の施設の有効配置 ② 安定したサプライチェーンの構築 ③ 岡山工場の安定稼働(BCP対応)
高収益体質の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> ① フロー合成反応等による電子材料分野の原価低減 ② 製造ラインの専用化・自動化による生産効率向上(成長品目) ③ 生産工程における廃油の有効活用(製造原価低減・省エネ)
持続的な成長	<ul style="list-style-type: none"> ① 生産能力増強による売上拡大(合成第10工場建設) ② 新製品上市による売上拡大(開発期間短縮化) ③ 海外子会社を含めたグループの販売方法(経路)最適化 ④ 新技術開発の強化

次世代の成長領域の創出	主な取組事項
中長期的な生産能力向上	合成第10工場の完工・第11工場の建設検討、岡山工場再編の推進
コア技術深化・新しいコア技術開発	新製品上市による売上拡大、新規分野開拓(新技術開拓の強化・推進)

(c) 繊維資材事業

事業戦略	主な取組事項
成長戦略の明確化と成長分野への経営資源の投入	<ul style="list-style-type: none"> ① 再生繊維素材の取扱強化 ② ターゲットの明確化 ③ 事業領域の拡張、新技術素材(バイオ系新素材等)の取り扱い ④ 親会社とのシナジー効果発揮(親会社の化学合成技術を生かした新製品開発)
ガバナンス・組織体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ① コンプライアンス体制・リスク管理体制の強化 ② 人的資本投資の強化 ③ 営業部門・管理部門の体制見直し(親会社機能の活用拡大と連携体制の強化)
サステナビリティ向上とスマート化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① カーボンニュートラルに向けた取組強化(再生繊維素材の取扱拡大) ② CSR調達体制の構築(親会社との連携) ③ IT化・デジタル化の推進(親会社システムの活用等)

次世代の成長領域の創出	主な取組事項
グループ会社とのシナジー効果発揮	化学合成技術を活かした新製品開発
製品ポートフォリオの改革	再生繊維素材の取扱拡大、バイオ系新素材の採用

本資料に記載されている業績予想・将来の見通しに関する記述等に関しましては、現時点で得られた情報に基づいて判断・算定したものであり、実際の業績は、今後のマクロ経済動向および市場環境、並びに当社グループに関連する業界動向、またその他内部・外部要因等、さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

■ お問い合わせ先

北興化学工業株式会社

企画部 IR担当

電話：03-3279-5151

FAX：03-3279-5195